

滋賀医科大学

環境報告書 2015

(平成 26 年度活動報告)

本学では環境に配慮するため用紙媒体での公表は控え、Web 上でのみの公表いたします。

編集方針、目次

編集方針

～「環境報告書 2015」の編集にあたって～

本報告書にて、国立大学法人滋賀医科大学の環境・社会活動について、平成 26 年度の取り組みと実績、今後の計画を報告します。作成にあたり素案をワーキングメンバーで校正し、建築・環境委員会及び役員会で審議しました。

目次

1. トップメッセージ	p.2
2. 大学概要	p.4
3. 報告対象	p.6
4. 環境負荷	p.7
4.1. マテリアルフロー	p.7
4.1.1. エネルギー消費量	p.8
4.1.2. 温室効果ガス排出量	p.9
4.1.3. 電気・ガス消費量	p.10
4.1.4. 水使用量	p.12
4.2. 廃棄物排出量	p.13
4.3. グリーン購入状況	p.15
4.4. 古紙回収の状況	p.15
5. 環境目標・実績	p.16
6. 環境・社会活動情報	p.17
7. 環境報告書まとめ	p.22
8. その他	p.23

1. トップメッセージ



滋賀医科大学学長 塩田 浩平

先進国と途上国の対立が続いていた温暖化対策に関する新しい国際的枠組みが、ようやく合意に向かい始めました。2015年12月にパリで開催されるCOP21(国際気候変動枠組条約第21回締結国会議)にむけて、アメリカや中国など世界の多くの国々が2025/2030年にむけた温暖化対策目標案をすでに提出し、日本も2030年までに2013年比で温室効果ガスを26%削減することを公表しています。

温暖化対策を考えるにあたって、我々は参考とすべき先例をもっています。1987年に採択されたモントリオール議定書に基づき、国際社会はオゾン層を破壊すると考えられていたフロン類の削減に取り組んできました。その結果、現在ではほとんどのフロン類の大気中濃度が減少傾向を示すようになり、南極オゾンホールは徐々に小さくなり、この問題が解決に向かうとの研究結果も発表されるまでになっています。環境問題を人間の力で解決に導きつつある偉大な先例というべきでしょう。フロン問題から我々が学習したのは、人間の活動がいかに急速に環境を変化させてしまうのか、そしてそれを回復させるにはどれほど多くの期間と努力が必要なのかということでした。

温室効果ガスはすべての市民の生産や消費の方法と深く関わっているた

め、その削減はフロン削減に比べはるかに複雑で困難なものです。その成否の鍵は、政府だけでなく市民社会を構成するすべての市民、組織が握っているといえます。地域に支えられている滋賀医科大学も、温室効果ガス削減を最重要課題の一つとして認識し、これまで活動を進めてきました。

本学の 2014 年度の実績をみますと、電気・ガス消費量、水使用量が前年度より減少し、建物延床面積当たりのエネルギー消費量は前年度比1%以上の削減目標に対して 5.2%削減を達成しました。これは構成員の省エネ努力の成果であります。しかし、温室効果ガスについては、電力会社の排出係数上昇のため、排出量の減少には結びついていません。引き続き、省エネを通じた環境保護の推進に大学を挙げて取り組んで行く所存です。

2016 年度からはじまる新たな中期計画期間においては、滋賀医科大学の使命として3C (Creation: 優れた医療人の育成と新しい医学・看護学と医療の創造、Challenge: 優れた研究による人類社会・現代文明の課題解決への挑戦、Contribution: 医学・医療を通じた社会貢献)を推進していきます。これらの活動を着実に進めていくための基盤としての環境や安全の重要性は増すばかりです。滋賀医科大学は、教職員一体となって今後とも環境配慮活動を推進してまいります。

2. 大学概要

役員

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

学長	塩田浩平
理事	堀池喜八郎
理事	松末吉隆
理事	藤山佳秀
理事	竹田幸博
監事	井尻正博
監事	梅山克啓

職員・学生数

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

職員数

役員	5(2)	人
教員	374(6)	人
事務職員	129	人
技術職員	812	人
計	1320(8)	人

(注) ()内の数字は、外数で非常勤を示します。

医学部学生数

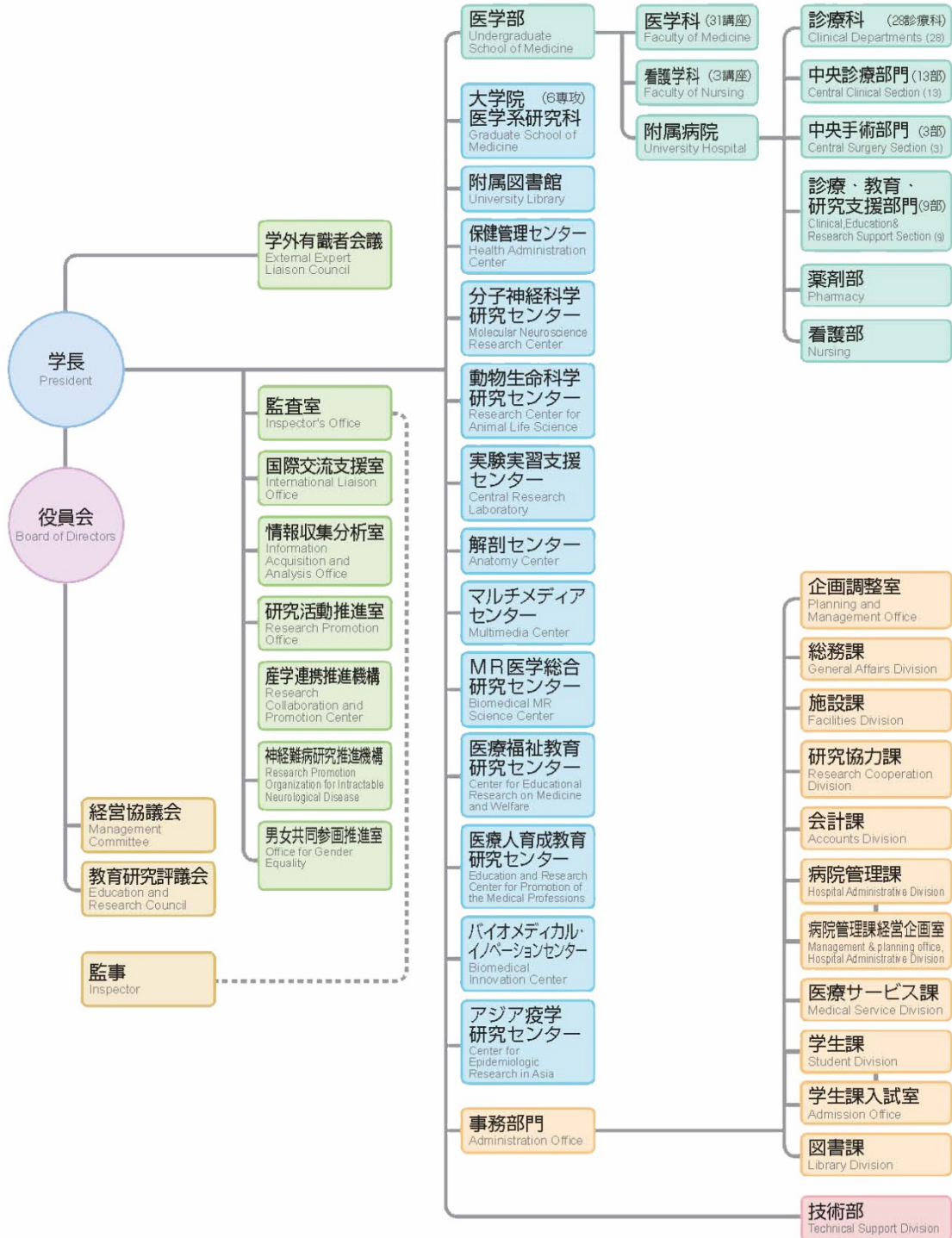
医学科	676	人
看護学科	260	人
計	936	人

大学院医学系研究科学生数 152 人

土地・建物

土地	233,018m ²
延面積	119,595m ²

(平成 26 年 5 月 1 日現在)



3. 報告対象

期間 平成 26 年度(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

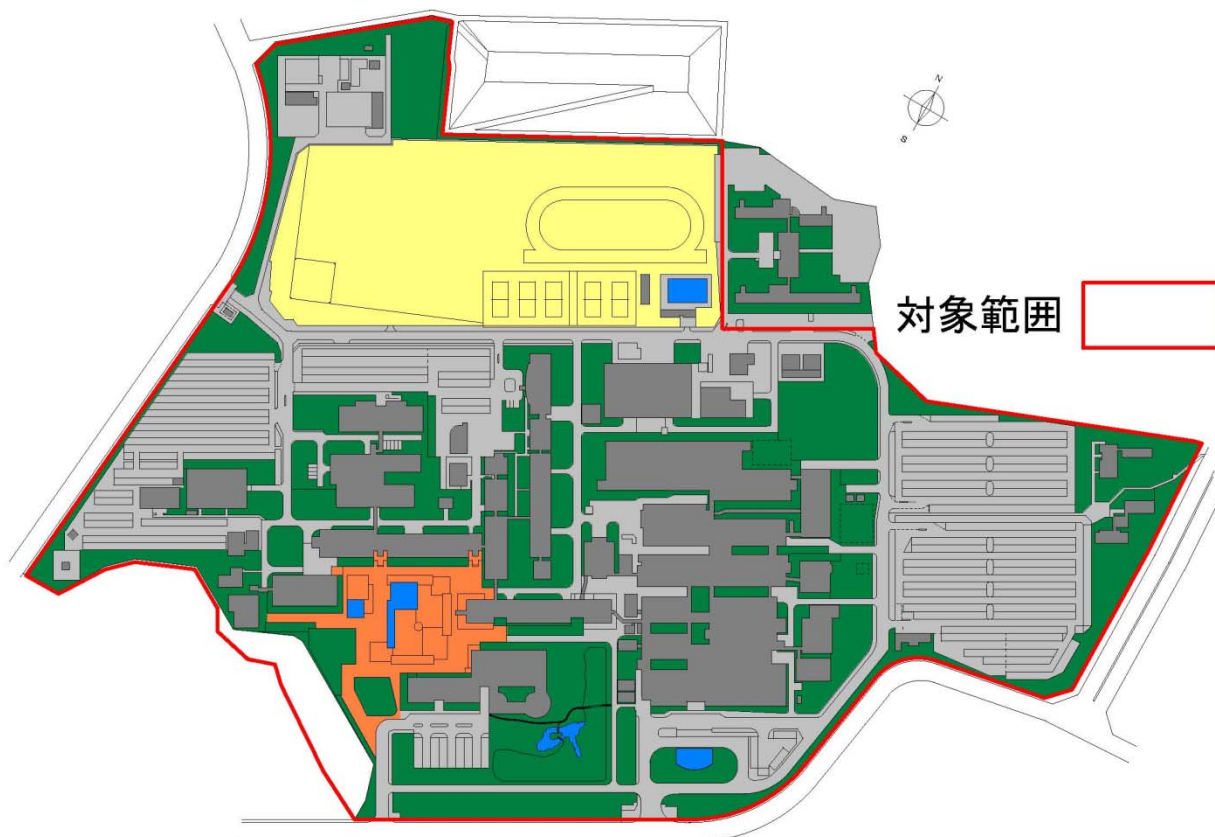
範囲 医学部、医学部附属病院、附属図書館、事務部門
(瀬田月輪団地の看護師宿舎を除く全てを対象としています。)

公表時期 平成 27 年 9 月

次回公表時期 平成 28 年 9 月

参考としたガイドライン

環境省「環境報告書の記載事項津の手引き(第 2 版)



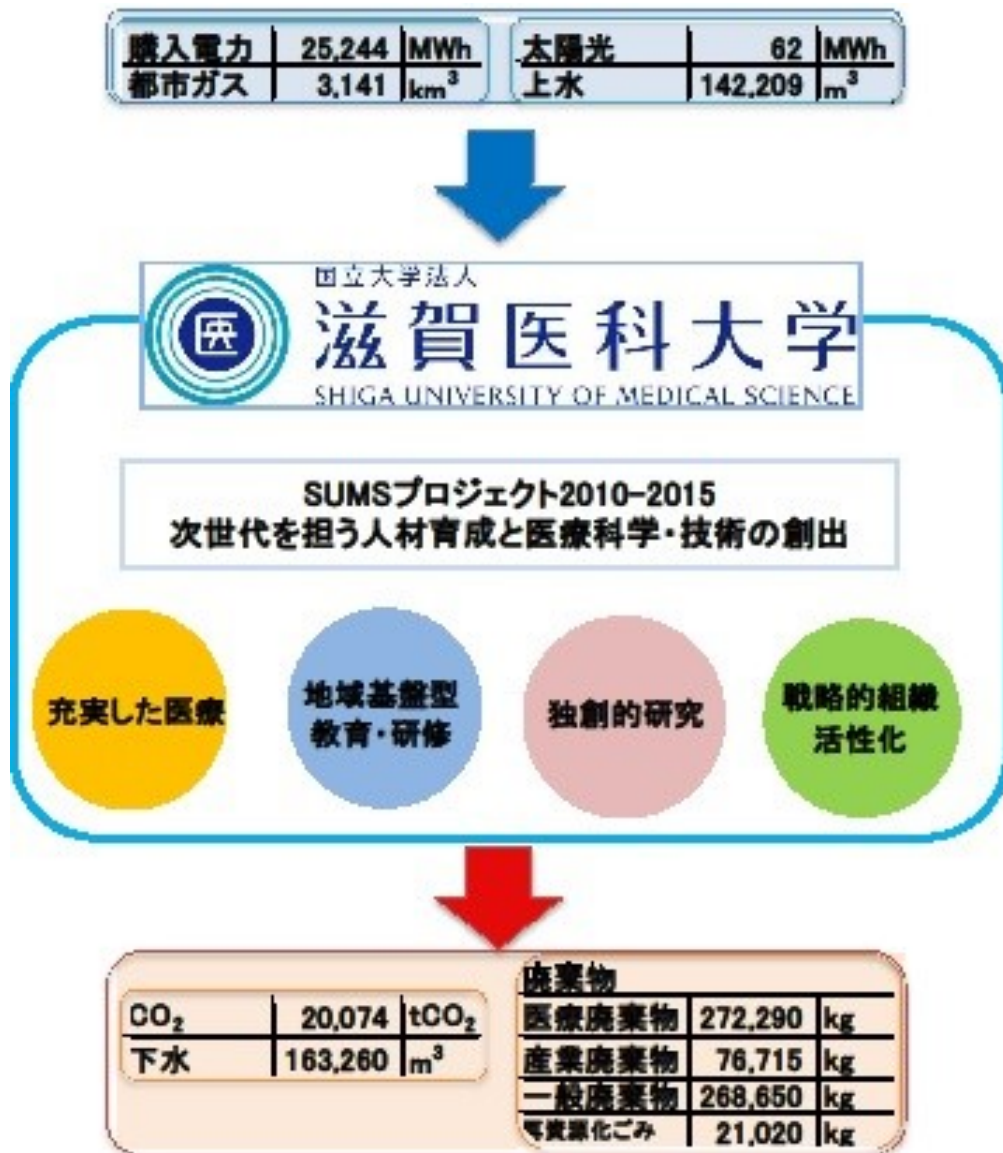
構内配置図

4. 環境負荷

平成 26 年度に滋賀医科大学で消費されたエネルギー量等(電気ガス上下水道)、廃棄物排出量および環境負荷について示します。

4.1. マテリアルフロー

本学の資源・エネルギーの供給・消費と廃棄物等の排出をマテリアルフローとして以下にまとめました。



ここで上水に大学構内で汲み上げ RO 膜等で処理し、飲用可した水を含みます。

4.1.1. エネルギー消費量

本学のエネルギー消費量を電力・都市ガス使用量より算出した結果を下記に示します。

平成 26 年度は平成 25 年度と比較して、エネルギー総量で 1.9%、建物延床面積あたりで 5.2%の減少となりました。

エネルギー消費量の減少の理由として、外気負荷の低下および、各種省エネ活動(6.環境・社会活動情報を参照)の成果が考えられます。

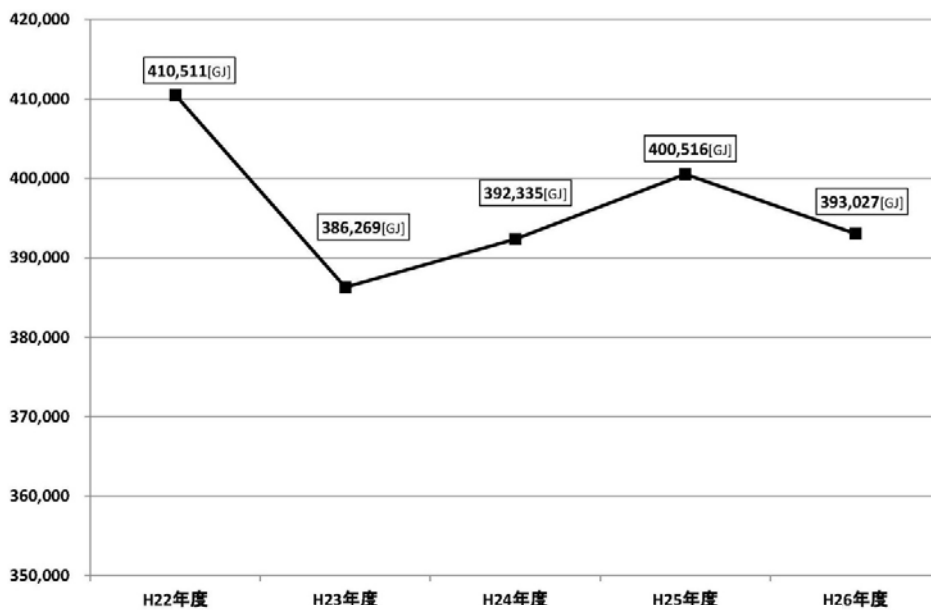


表 1. 過去 5 年間の総エネルギー使用量の推移

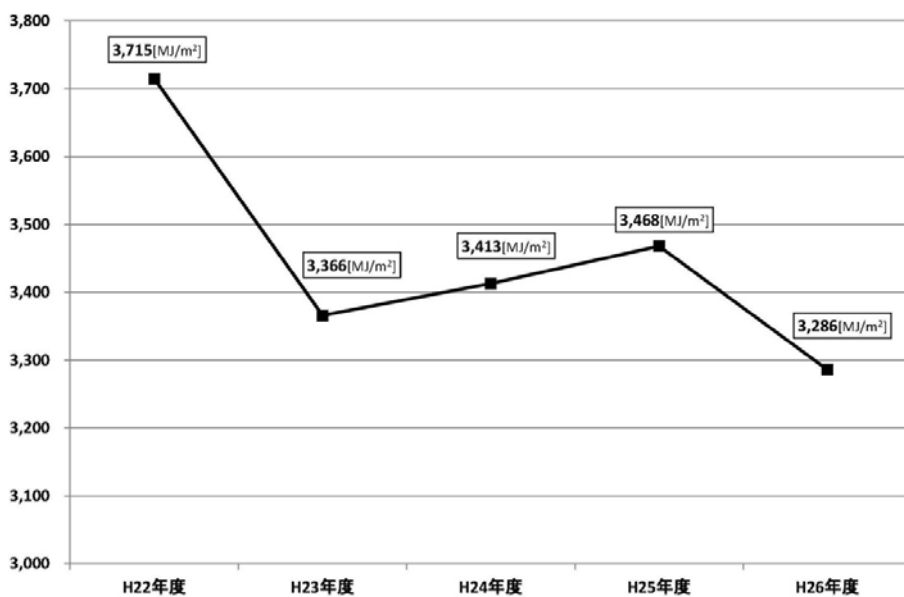


表 2. 過去 5 年間の建物延床面積あたりのエネルギー使用量の推移

4.1.2. 温室効果ガス排出量

本学の温室効果ガス排出量に関わる対象物質は電力・都市ガスとなります。平成26年度は20,074[tCO₂]であり、建物延床面積あたり168[kgCO₂/m²]の排出となりました。

前年度排出量と比較し、総排出量は微増・建物延床面積あたりでは現状維持となりましたが、理由として原子力発電所の休止による関西電力の排出係数の上昇(H25年度：0.475 → H26年度：0.516 [×10⁻³tCO₂/kWh])が挙げられます。

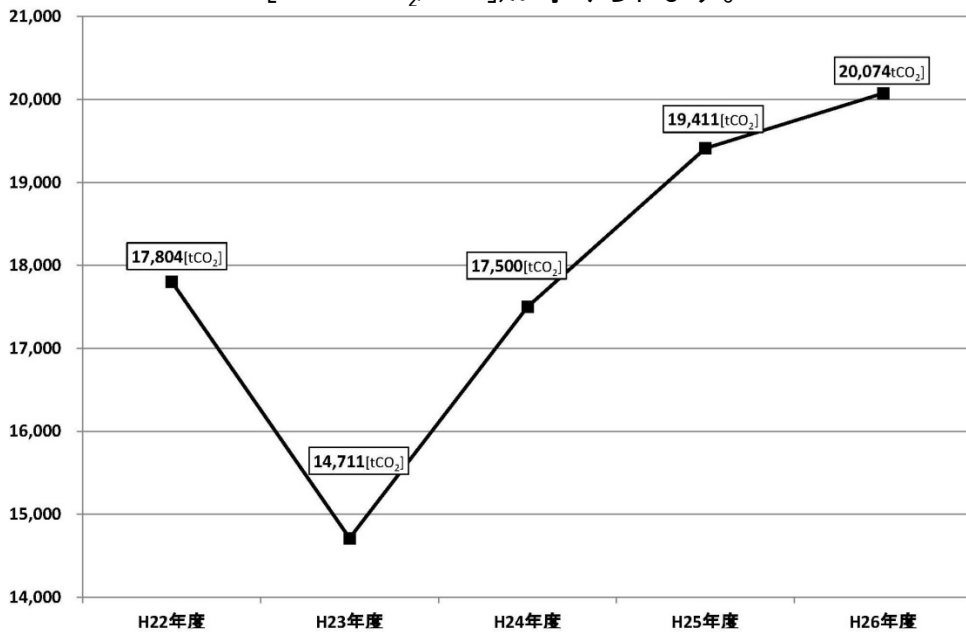


表 3. 過去5年間のCO₂総排出量の推移(関西電力調整後係数)

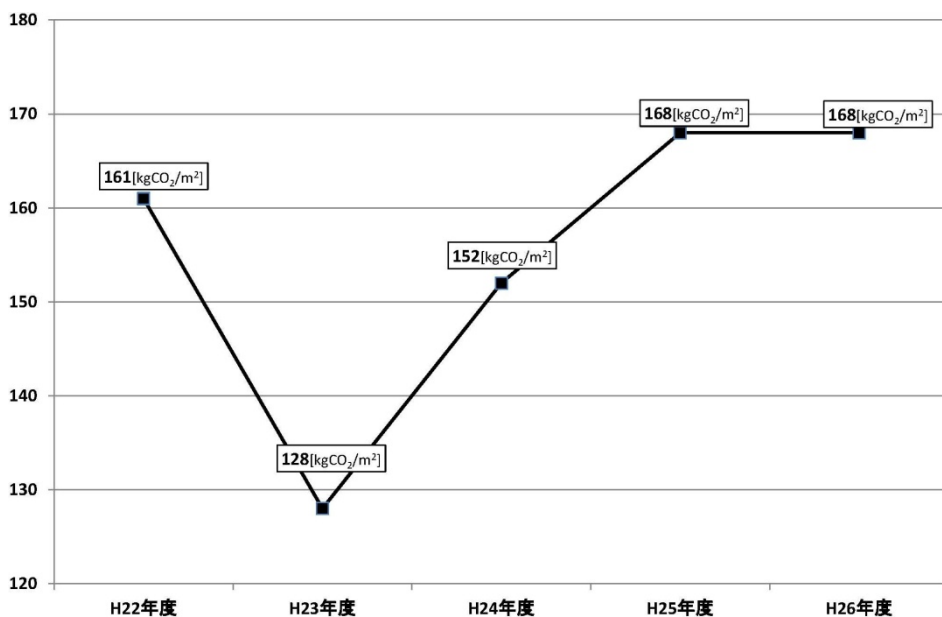


表 4. 過去5年間の建物延床面積あたりのCO₂排出量の推移(関西電力調整後係数)

またデフォルト値での総排出量は 21,058[tCO₂]、建物延床面積あたり 176[kgCO₂/m²]となりました。建物延床面積あたりの排出量が過去 5 年間で最低値となり、各種省エネ活動の成果が出ていると言えます。

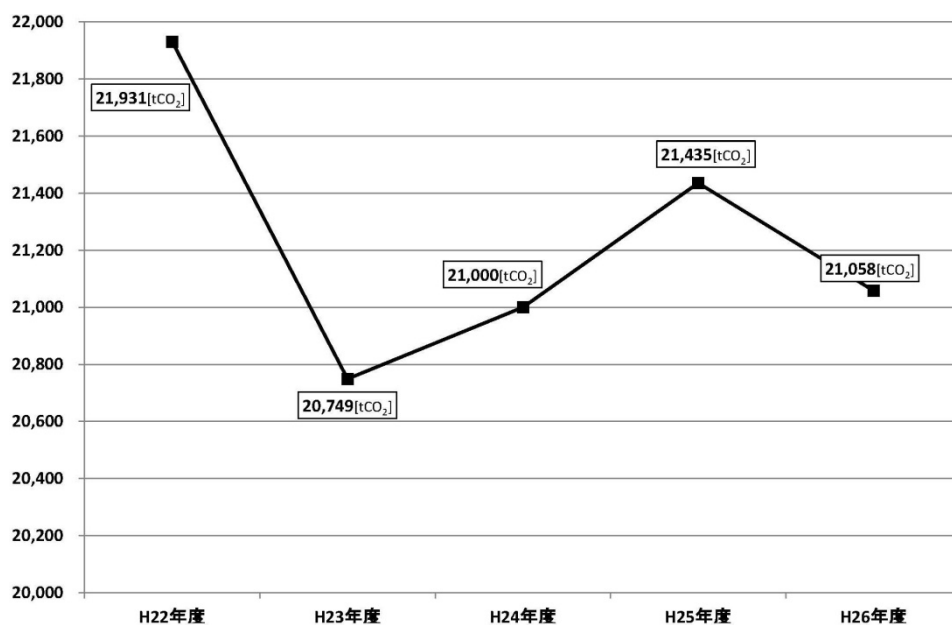


表 5. 過去 5 年間の CO₂ 総排出量の推移(デフォルト値)

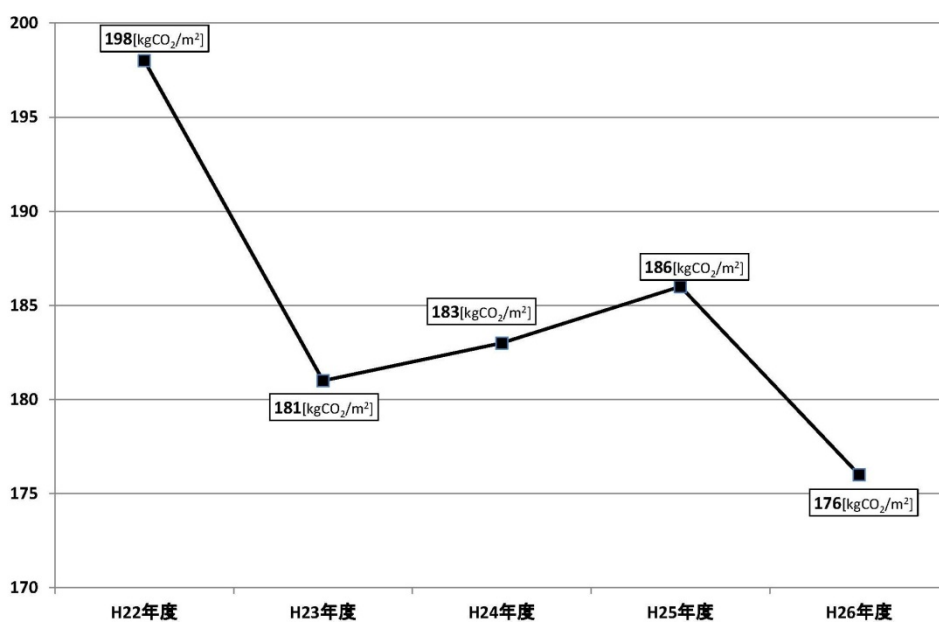


表 6. 過去 5 年間の建物延床面積あたりの CO₂ 排出量の推移(デフォルト値)

4.1.3. 電気・ガス消費量

以下に電力・都市ガスの使用量の推移を示します。

また電気需要平準化時間帯の電力量は 16,059[MWh]でした。今後は電気需要平準化評価原単位の削減も同時に推進していきます。

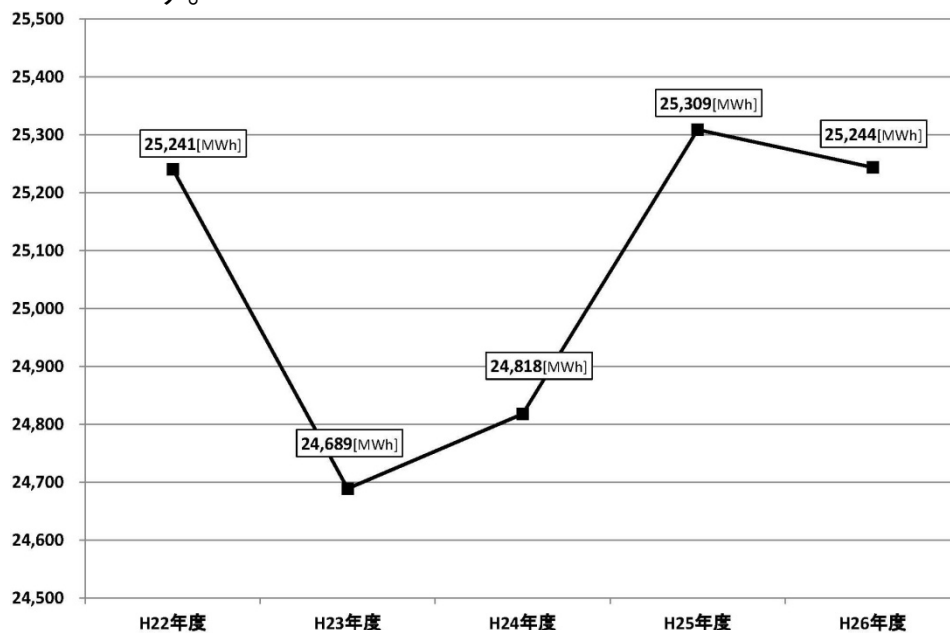


表 7. 過去 5 年間の電力使用量の推移

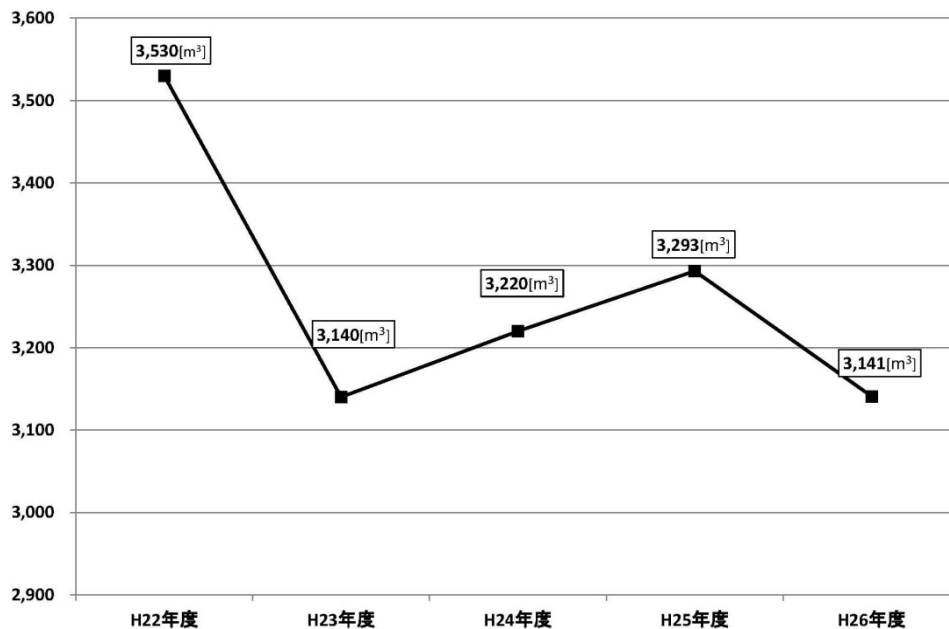


表 8. 過去 5 年間の都市ガス使用量の推移

4.1.4. 水使用量

以下に上下水および中水^{注1)}の使用量を示します。

上水・中水共に使用量は減少しています。これは昨年度より平均的な外気温が下がっているため、空調用ボイラや冷凍機用補給水が減少したためと考えられます。

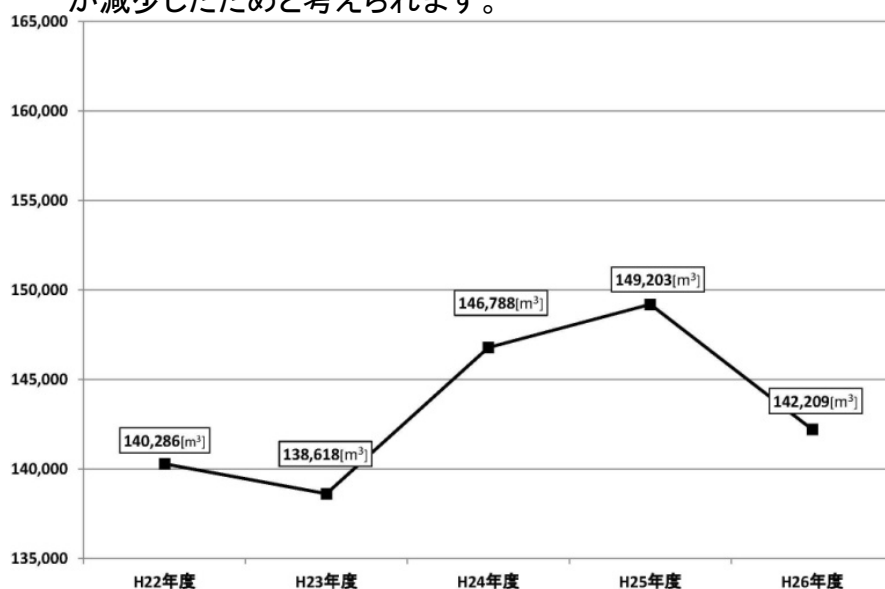


表 9. 過去 5 年間の上水使用量の推移

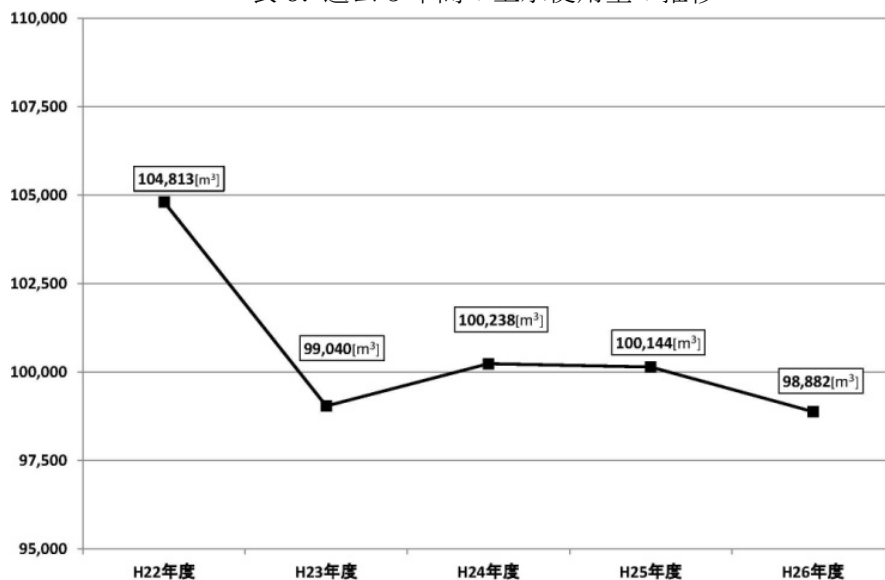


表 10. 過去 5 年間の中水使用量の推移

注 1) 中水とは

滋賀医科大学にて排水された実験排水を薬品処理した再利用水と、地下水を汲み上げる過塔にて処理した水を合わせたものです。主な使用用途としてトイレの洗浄水が挙げられます。

4.2. 廃棄物排出量

以下に廃棄物の排出量の推移を示します。本廃棄物とは医療廃棄物、産業廃棄物、一般廃棄物、再資源化ごみを示します。

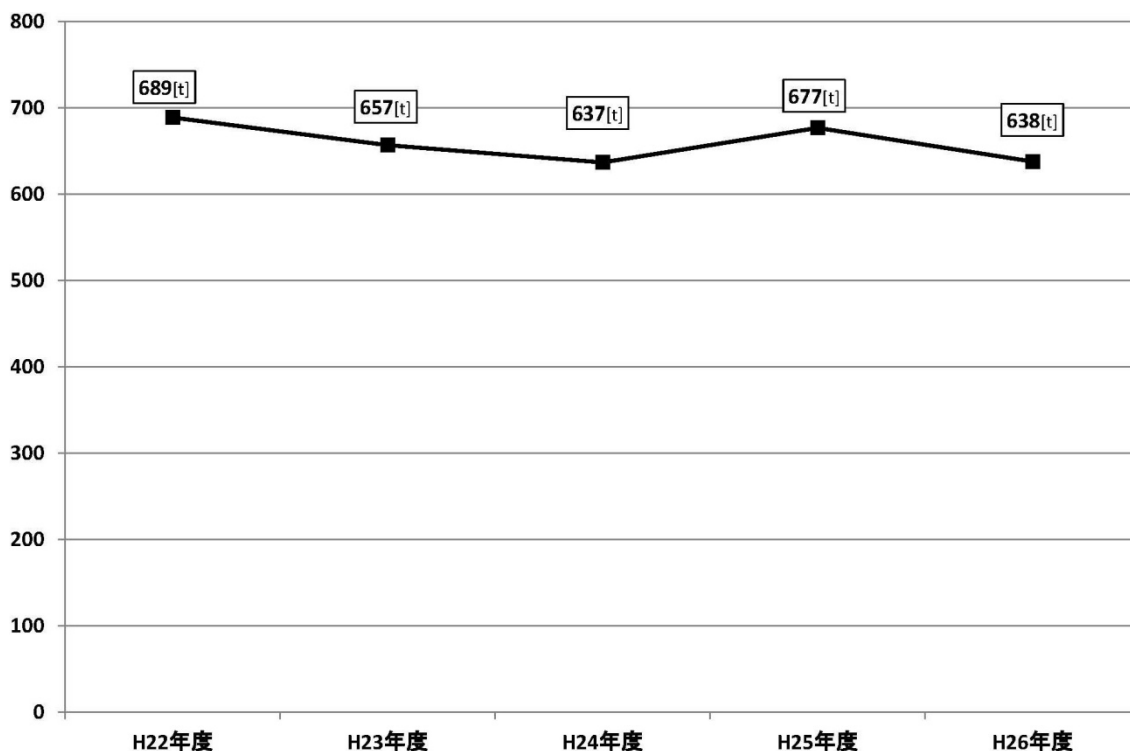


表 11. 過去 5 年間の廃棄物排出量の推移

【廃棄物の適正な処理】

(医療廃棄物について)

医療廃棄物とは、血液・血清・血漿並びに体液、血液製剤、病原微生物に関連した試験・検査等に用いられた試験器具・培地・透析器具、血液等が付着した鋭利なもの及びその他血液が付着したものが廃棄物として排出されたものを指します。本学では、「滋賀医科大学排水・廃棄物管理等規程」を制定し、管理体制を整備するとともに、これら感染性廃棄物の搬出・処理の過程において感染事故が発生しないよう努めています。

また、基本的には医療廃棄物は発生時点で他の廃棄物と分別して排出し、絶対に混入してはならないことになっています。従って、医療廃棄物を排出する際には必ず本学が指定する専用の段ボール箱又はポリ容器を使用し、その管理には万全を期しています。

(医療廃棄物の処理)

医療廃棄物は、各部署から専用の段ボール箱及びポリ容器で搬出され、清掃請負業者によって専用の集積場所に搬入されています。そして、ここに集められた医療廃棄物は、産業廃棄物委託業者が週に 4 回程度の割合で収集運搬・処理をします。その際には、電子マニフェストシステムに登録して排出から最終処分までの処理が適正に行われていることを確認しています。

(産業廃棄物について)

産業廃棄物については、医療用に用いられたプラスチック類、医療用缶、医療用ビン、その他一般用ビンなどに分かれます。これらの分別された産業廃棄物は適切に処分し、一部はリサイクルされています。

(一般廃棄物について)

一般廃棄物については日常生活で発生する一般ごみ、缶、ペットボトルに分類されます。この中で一般ごみは、本学の所在地である大津市の分別方法に従って分別しており、分別された一般廃棄物は大津市の処分場に搬入しています。また、缶及びペットボトルは再資源化ごみとして処理しています。

(廃棄物の分別について)

廃棄物の分別については、「滋賀医科大学における廃棄物の分別方法」の一覧表を作成し、関係部署に周知しています。この一覧表は区分毎に例示図柄を用いることにより、一目で確認できるよう工夫しています。

4.3. グリーン購入状況

本学では、グリーン購入法(国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律)に基づき、環境負荷低減に資する製品・サービスなどの調達を進め、毎年度の状況の実績を関係省庁に報告しています。

環境負荷低減に資する製品・サービスとは、グリーン購入法において、「原材料・部品・製造方法等や、使用時に環境への負荷を低減しているもの」「これらの製品等を用いて行われるサービス」等を言い、これらの製品にはカタログにグリーン購入法適合商品を意味するグリーンマークやエコマーク等の環境保護マークが付され、選びやすくされています。

物品の選択にあたって、本学でも環境保護マークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するよう努めると共に、特定調達品目にはされていないトナーカートリッジの調達に当たっては、出来る限り再生品の調達に努めています。

また、OA 機器、家電製品については、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものの調達に努めるなど環境保全に配慮された物品を調達することに配慮しています。

そのほか、役務の提供事業者、公共工事の請負事業者等に対しても、グリーン購入を推進するよう働きかけています。

平成 26 年度のグリーン購入実績も 100%となっています。

4.4. 古紙回収状況

本学では古紙回収を実施しており、月 1 回程度専門の業者が回収し資源化しています。平成 26 年度においては、ダンボール 43,680[kg]、新聞紙 2,570[kg]、雑誌類 37,460[kg]、機密書類 38,720[kg] 回収し、資源化しました。

5. 環境目標・実績

環境側面		目標	実績	実施事項
エネルギー		建物延床面積 あたり前年度 比1%以上の削減 3,468 MJ/m ²	3,286 MJ/m ² 前年度比 5.2%削減	照明の部分消灯
				照明のLED化
				パソコン省電力の徹底
				エアコン消し忘れ防止
				自動販売機の消灯
				クールビズの実施
				外灯制御
				太陽光パネルの清掃
				講座・課・室単位での節電計画の作成
				環境に配慮した工事の実施
				図書館等の最新型空調機器の導入
資源	上下水	現状維持 上水：149km ³ 下水：150km ³	上水：142km ³ 下水：163km ³	節水コマの使用
				自動水栓の導入
				節水型便器の導入
				月別上下水道の使用量のHPでの掲載
				中水の活用
	廃棄物	現状維持 677t	638t	メール等を用いた不要物品のリユース
				3R $\left\{ \begin{array}{l} \text{リユース} \\ \text{リデュース} \\ \text{リサイクル} \end{array} \right\}$ の実施

6. 環境・社会活動情報

【ソフト面での省エネ・省資源対策】

○省エネルギー・省資源への啓発活動

夏季や冬季のピーク電力の削減を目標とした省エネ活動を中心に活動を進めました。

具体的な内容を下記に示します。

- ・HP や学内掲示板への具体的なエネルギー対策の公開
- ・講座・課・室単位での節電計画の作成および実施状況の確認(次項参照)
- ・照明の部分消灯(間引き等を含む)
- ・照明の LED 化(病棟のベッド灯等球切れしたものから順次 LED 電球に取替)
- ・夏季の暖房便座の電源 OFF(洗浄機能は使用可能)
- ・パソコンの省電力の徹底(HP に節電マニュアルの公開)
- ・エアコンの消し忘れ防止(一定時間に強制 OFF 設定)
- ・自動販売機照明の消灯
- ・クールビズ・ウォームビズの推進
- ・夜間の人通りが無い箇所の外灯の消灯
- ・太陽光パネルの清掃(6GJ のエネルギー効率の改善の見込)

○節電計画書

下記のような節電計画書を各講座・事務部門の各課室に作成・提出を依頼しました。また一部の講座に対し、それに則った節電行動がとれているかを確認することでソフト面での省エネを推進しました。

課室節電計画書

(別紙)

各課室の節電対策を実施する責任者を選任のうえ、連絡先等を以下に記入してください。
節電責任者は実務的に指示ができる方を立ててください。

課室名	
節電責任者名	
内線	
連絡先メールアドレス	

1月5日から3月31日の冬季節電期間に各課室で実施いただく節電内容を下表に記入いただきます。

節電活動例が下表「節電対策」欄にすでに記入されています。貴課室で取り組む対策については「実施」欄に○を記入してください(取り組まない活動には○記入は不要です)。

「節電対策」欄にすでに記載されている項目以外に課室が独自に取り組む対策があれば、「その他事務室で実施できる節電項目」に記入のうえ、「実施」欄に○を記入してください。

節電責任者を中心にこの計画を実施してください。

節電対策の実施状況を建築・環境委員会が調査に伺うことがあります。

節電対策	節電対策の解説	実施
パソコン省エネ設定		
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタの輝度を下げる ・モニタが節電モードになるまでの時間を短くする ・システムスタンバイまでの時間を短くする 	モニターの輝度を下げたり、モニター電源を切る時間を短くしたり、システムスタンバイまでの時間を短くする設定をお願いします。設定方法等くわしくはこちらをご覧ください。 (http://gakunai.shiga-med.ac.jp/mmc/setsuden2011/)	
エアコン20℃設定		
<ul style="list-style-type: none"> ・設定温度20℃の確認 	温度制限のない部屋のエアコンの温度設定は20℃としてください。	
不使用OA機器のコンセントを抜く		
<ul style="list-style-type: none"> ・サーバーの電源を抜く ・ハブの電源を抜く 	使用していないサーバーやハブの電源はコンセントから抜いてください。	
照明間引き		
<ul style="list-style-type: none"> ・蛍光灯の間引き 	事務室・研究室の蛍光灯削除をお願いします。蛍光管を外すのが好ましいですが、スイッチによるコントロールでも構いません。前者の場合は施設課電気係(内線2056)に蛍光管取り外しの作業を依頼ください。後者の場合は、間違っただけ点灯することのないような措置(掲示等)をお願いします。	
プリンター、FAX、コピー機などの稼働台数の集約化		
<ul style="list-style-type: none"> ・プリンター(複合機含む)稼働台数の集約 ・ファックスの稼働台数の集約 ・コピー機の稼働台数の集約 	おおむね500W以上の機器について集約・停止をお願いします。	
非実験用の冷蔵庫や電子レンジ等の集約化		
<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫、冷凍庫の集約 ・電子レンジの集約 ・電気ポットの集約 ・コーヒーメーカーの集約 ・炊飯器の集約 	非実験用冷蔵庫、電子レンジ電気ポット、コーヒーメーカー、炊飯器などは電力が大きいため集約・停止をお願いします。	
その他、研究室で実施できる節電項目		
	その他研究室で実施できる項目があれば記入してください。	

【ハード面での省エネ・省資源対策】

○環境に配慮した建物改修工事

平成 26 年度には図書館の改修工事を実施しました。これによる環境負荷軽減等は下記の通りです。

本学図書館は建築後37年を経過しており、老朽化が進んでいました。今回の改修では耐震性能の確保と空調・照明等の老朽化対策を実施し、エコで安心安全な施設環境を実現しました。また、自学自習スペースとアクティブラーニングスペースを創出し、医学系図書館としての機能向上を図りました。

ラウンジコーナー改修

外壁改修 耐震補強

閲覧室を区画し個人学習用自習スペースを確保

省エネに配慮した薄型断熱ガラス採用

図書資料を活用したグループ討論の実施可能なアクティブラーニングスペースを整備

1階平面図

2階平面図

エレベーター更新 11人乗り 地震火災管制あり 障害者対応仕様

アメニティに配慮した中庭

省エネに配慮した照明(LED)を採用 図書館にかかる照明エネルギーを年間約40%削減 経費にして年間約50万円削減見込み

省エネに配慮した最新型空調機を採用 図書館にかかる空調エネルギーを年間約28%削減 経費にして年間約40万円削減見込み

○井水浄化供給システムの導入

井水浄化供給システムを導入し、平成 26 年 8 月に運用を開始しました。このシステムにより、通常時だけでなく災害時の水の安定供給の貢献が可能となりました。



○滋賀医科大学中長期省エネルギー計画

下記のような中長期省エネルギー計画を作成しました。今後はこの計画に則り、ハード面での省エネルギーを推進していきます。

この計画通りに実施することで、平成34年までの8年間で総エネルギー消費量を13.3%削減できる見込です。これは年平均1.7%の削減にあたります。またこれを実施するためには1.9億円前後の費用が必要となると考えています。

滋賀医科大学中期省エネルギー計画

項目	概要	削減電力量 (kWh)	削減ガス量 (m3)	工事費 (千円)	年間削減エネルギー量 (千円)	回収年	単位: GJ										財源(案)			
							H25 省工本費	H26 省工本費	H27 省工本費	H28 省工本費	H29 省工本費	H30 省工本費	H31 省工本費	H32 省工本費	H33 省工本費	H34 省工本費				
解剖教室エアコン	個別エアコンを設置し、大型空調の運転時間短縮を図る	34,281	0	-	576	342														-
臨床基礎実習室更新	老朽化した並任室をトップランナー棟舎へ更新	62,473	0	-	1,650	623														-
国際交流会館エアコン	設置後17年が経過しているため、高効率エアコンに更新	5,588	0	-	84	38	38													学内経費
分子神経学エアコン	設置後17年が経過しているため、高効率エアコンに更新	11,529	0	-	194	38	38	38												学内経費
臨床講義棟高効率エアコン	建物内部に合わせて高効率エアコンに更新	14,427	0	-	242	144														施設整備補助金
福利棟高効率エアコン	建物内部に合わせて高効率エアコンに更新	7,830	0	-	132	78														-
中央図書館改修	老朽タイプのインverterにより省エネを図る	25,800	0	-	420	247														-
体育館・福利厚生棟高効率照明	効率の高い照明器具に更新	48,120	0	-	805	490														-
造気管バルブ等保潔	ボイラー室等の造気管バルブを保潔し、放熱ロス低減を図る	0	27,605	4,600	2,500	2		1,215												学内経費
病室LED照明	既定で使われている自然照明を廃棄しLEDに更新	10,194	0	1,436	171	8				102										学内経費
図書館高効率エアコン	中央空調方式から個別空調方式に更新し、省エネを図る	-63,600	58,400	-	3,720	-		1,640												施設整備補助金
図書館・武道場高効率照明の採用	効率の高い照明器具に更新	52,530	0	-	893	-		524												施設セクター補助金
病棟第二電気室更新	老朽化した並任室をトップランナー棟舎へ更新	48,373	0	10,338	813	13				482										財源
臨床高効率エアコン	中央空調方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを図る	-150,780	126,624	226,583	8,842	25				1,862	1,862									施設整備補助金
臨床基礎コンベヤ撤去	不要となっているコンベヤを撤去し、放熱ロスを減らす	-832	2,275	130	202	1				47	47									施設整備補助金
臨床高効率照明	効率の高い照明器具に更新	338,500	0	25,384	2,344	11				689	689									施設整備補助金
病棟第一電気室更新	老朽化した並任室をトップランナー棟舎へ更新	27,852	0	6,297	468	13				278										財源
中央棟基礎高効率照明	効率の高い照明器具に更新	3,540	0	3,442	58	58				35										施設整備補助金
国際交流会館更新	老朽化した並任室をトップランナー棟舎へ更新	3,833	0	778	64	12				38										学内経費
実験実習支援センター高効率エアコン	中央空調方式から電気式個別エアコンに更新し、省エネを図る	83,643	0	52,826	1,405	38				278	278									施設整備補助金
実験実習支援センター高効率照明	効率の高い照明器具に更新	111,825	0	20,476	1,878	11				557	557							557		施設整備補助金
病棟高効率エアコン	高効率型に更新し新たなエアコンが動作を止めるため更新する	-85,571	76,457	235,293	5,142	46				1,244								1,244		財源
附属棟実験棟高効率エアコン	中央空調部分全廃型空調に更新し、省エネを図る	-776,258	232,987	0	9,037	28					1,370	1,370								施設整備補助金
附属棟実験棟冷凍機更新	老朽した冷凍機を最新高効率型に更新	91,440	0	0	1,536													912		施設整備補助金
附属棟実験棟高効率照明	効率の高い照明器具に更新	104,663	0	19,988	1,748	11					346	346	346							施設整備補助金
中央棟基礎更新	老朽化した並任室をトップランナー棟舎へ更新	27,157	0	7,418	458	16				271										施設整備補助金
看護棟高効率エアコン	設置後17年が経過しているため、高効率エアコンに更新	126,818	0	54,900	2,131	26					421	421	421							施設セクター補助金

【社会・地域貢献活動】

本学では、教育・研究・診療等の活動を通じた社会・地域貢献に力を入れています。

本学の社会貢献のうち最も重要なものは、本学独自の研究活動を推進し、その成果を世界に発信することです。本学では「サルを用いた疾患モデルの確立とヒトの疾患治療開発への応用」「神経難病研究」「MR 医学と分子イメージング研究」「生活習慣病医学」「統合がん医療研究推進」を 5 重点プロジェクトして指定し、大学が支援を行ってきており、社会的に要請の高いアルツハイマー病やがん治療の分野において成果をあげています。

また、平成 22 年 1 月に策定された「滋賀県地域医療再生計画」に基づき、東近江市の国公立 3 病院（国立病院機構滋賀病院、東近江市立能登川病院、東近江市立蒲生病院）の集約化、再編が行われ、平成 25 年 4 月に「国立病院機構東近江総合医療センター」が開院しました。本学はここに総合内科学講座・総合外科学講座の医師を派遣し、地域医療の再生に向けた教育・研究・診療活動を推進しています。さらに平成 26 年 4 月からは、地域医療を組織的に確立することを目的に、総合内科学講座・総合外科学講座が運営する滋賀医科大学地域医療教育研究拠点の活動拠点を東近江総合医療センター内に設け、地域医療を担う医師に対する教育及び地域医療を担う医師の養成と確保に関する研究を行っています。

7. 環境報告書まとめ

本報告書は平成 26 年度に滋賀医科大学が取り組んだ環境や社会への行動を報告しています。

平成 25 年度と比較し、平成 26 年度は建物延床面積あたりのエネルギー消費量が 5.2%削減されたが、温室効果ガスの排出量はほぼ変動しませんでした。これはエネルギー使用量を削減したにも関わらず、原子力発電所の停止による、電気エネルギーの温室効果ガス排出係数の上昇により、温室効果ガスの排出量の削減ができなかったものと考えます。

平成 19 年以降長期的なエネルギー消費量は診療や研究の活性化や使用する機器の増加に伴い、漸近的に増加傾向にあります。

滋賀医科大学では面積あたりのエネルギー使用量を前年度比 1%以上削減を継続するための具体的な計画づくりに着手しています。老朽化した設備を最新の省エネタイプに更新していくことを中心とし、ソフト面でも学生や教職員の省エネ活動をより活発にするような計画の作成をしています。また本年度より電気需要平準化評価減単位の削減も視野に入れた計画を作成していきます。

8. その他

本報告書に関するお問い合わせは、下記まで。

作成部署・お問い合わせ先:

滋賀医科大学施設課施設企画係

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL : 077-548-2052 FAX : 077-548-2049

e-mail : hqsisetu@belle.shiga-med.ac.jp

ホームページアドレス:<http://www.shiga-med.ac.jp/>

交通・アクセス:

■所要時間

- ・東海道本線(琵琶湖線)JR 京都駅から JR 瀬田駅まで約 20 分
- ・JR瀬田駅から大学病院までバス約 15 分
- ・JR瀬田駅から大学病院までタクシーで約 10 分
- ・JR南草津駅から大学病院までバス約 15 分
- ・名神高速道路草津田上インターチェンジから約 5 分
- ・名神高速道路瀬田(西・東)インターチェンジから約 10 分

■JRの場合

東海道本線(琵琶湖線)の JR 瀬田駅で下車。JR 瀬田駅から「滋賀医大」行きのバスに乗り「大学病院前」で下車

※JR 瀬田駅には新快速は止まりません。快速または各駅停車をご利用下さい。また、JR 京都駅では琵琶湖線(草津、野洲、米原、長浜行き)と湖西線とお間違えないよう。

